清　水　地　区
カ　ル　テ

データについて

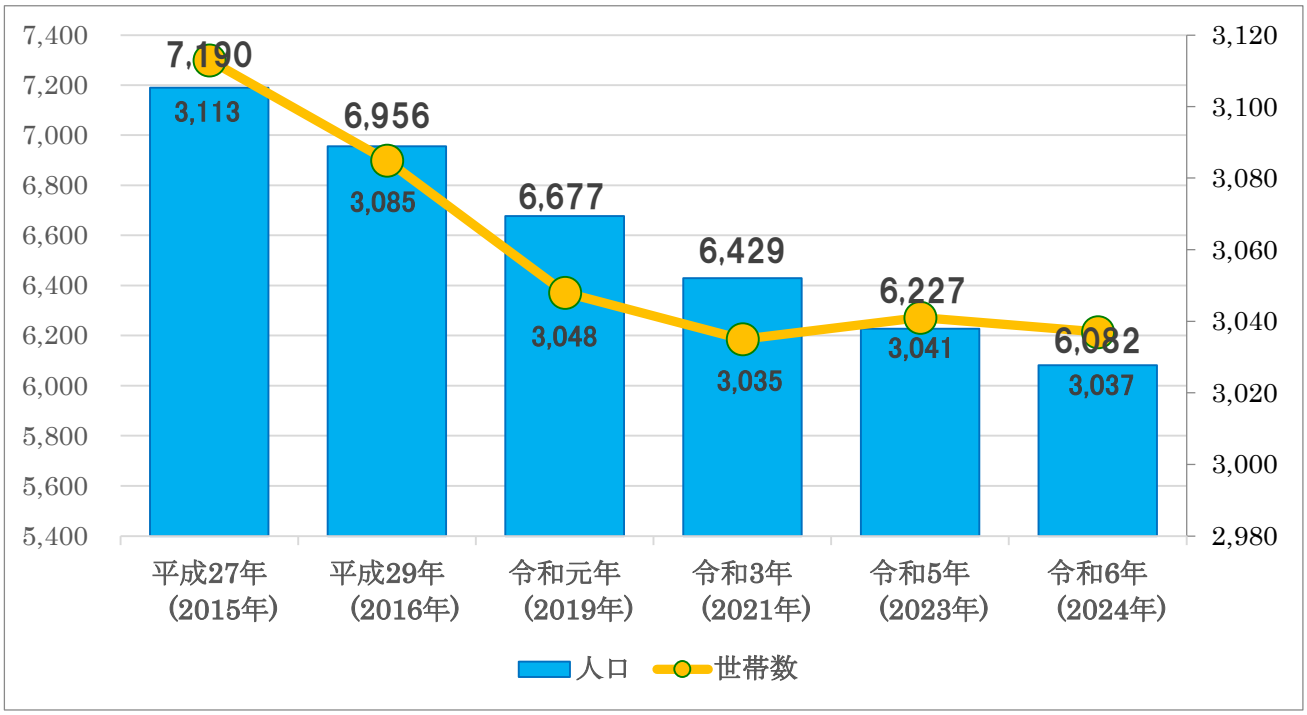
・カルテは住民基本台帳と自治会加入統計を利用しています。

・住民基本台帳は各年の 3 月 31 日の数値、自治会加入数は各年の 4 月 1 日の数値です。

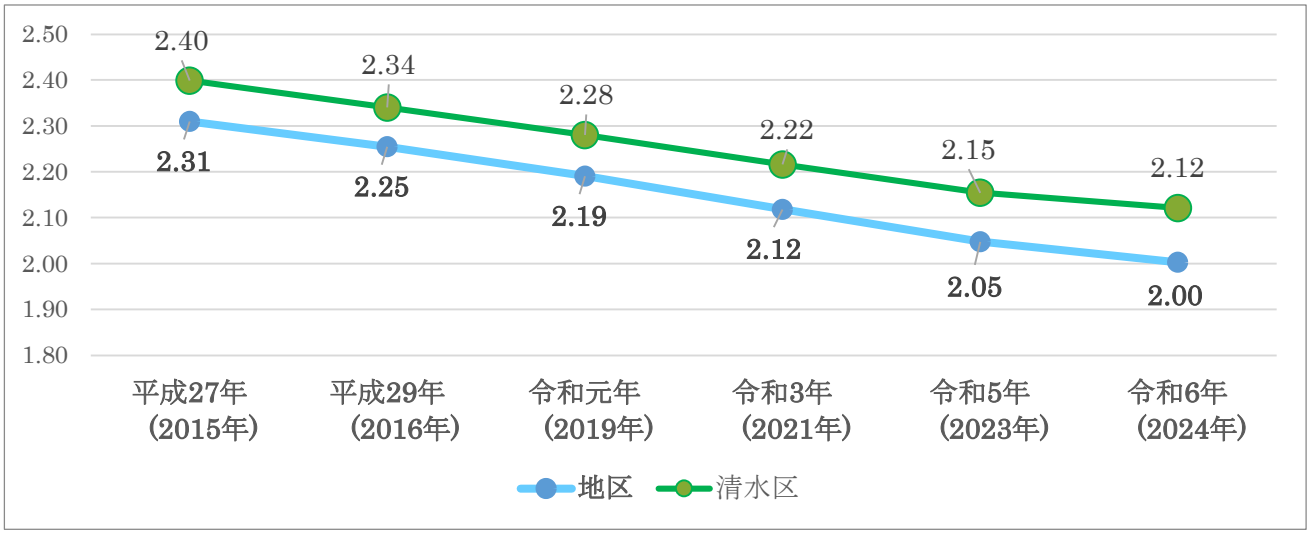
・町名は住民基本台帳を採用しているので、自治会名と一部異なる場合があります。

清水地区の人口特性　令和 6 年 3 月　6,082 人　3,037 世帯　2.00 人/世帯

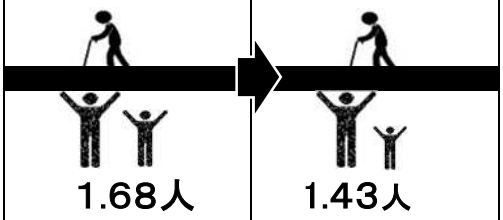
●人口・世帯数の推移



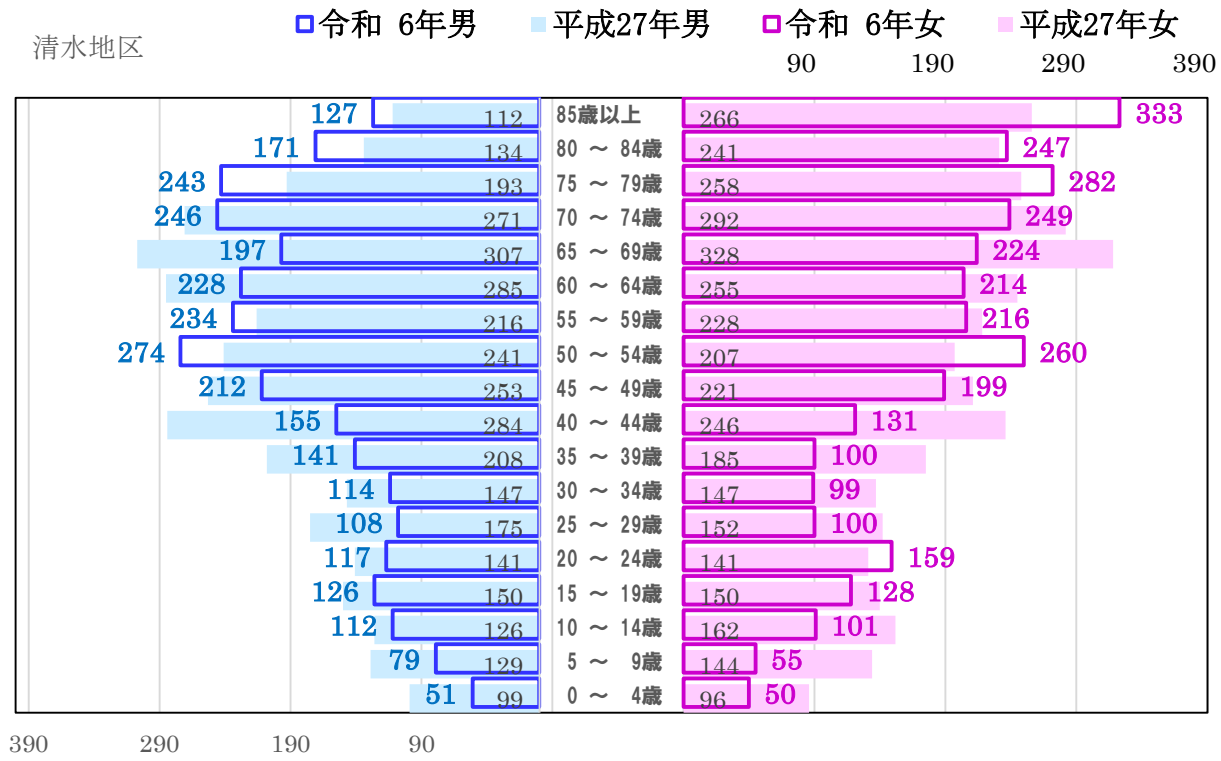
●一世帯当たりの人口推移



●65 歳以上の高齢者を支える生産年齢層（15-64 歳）

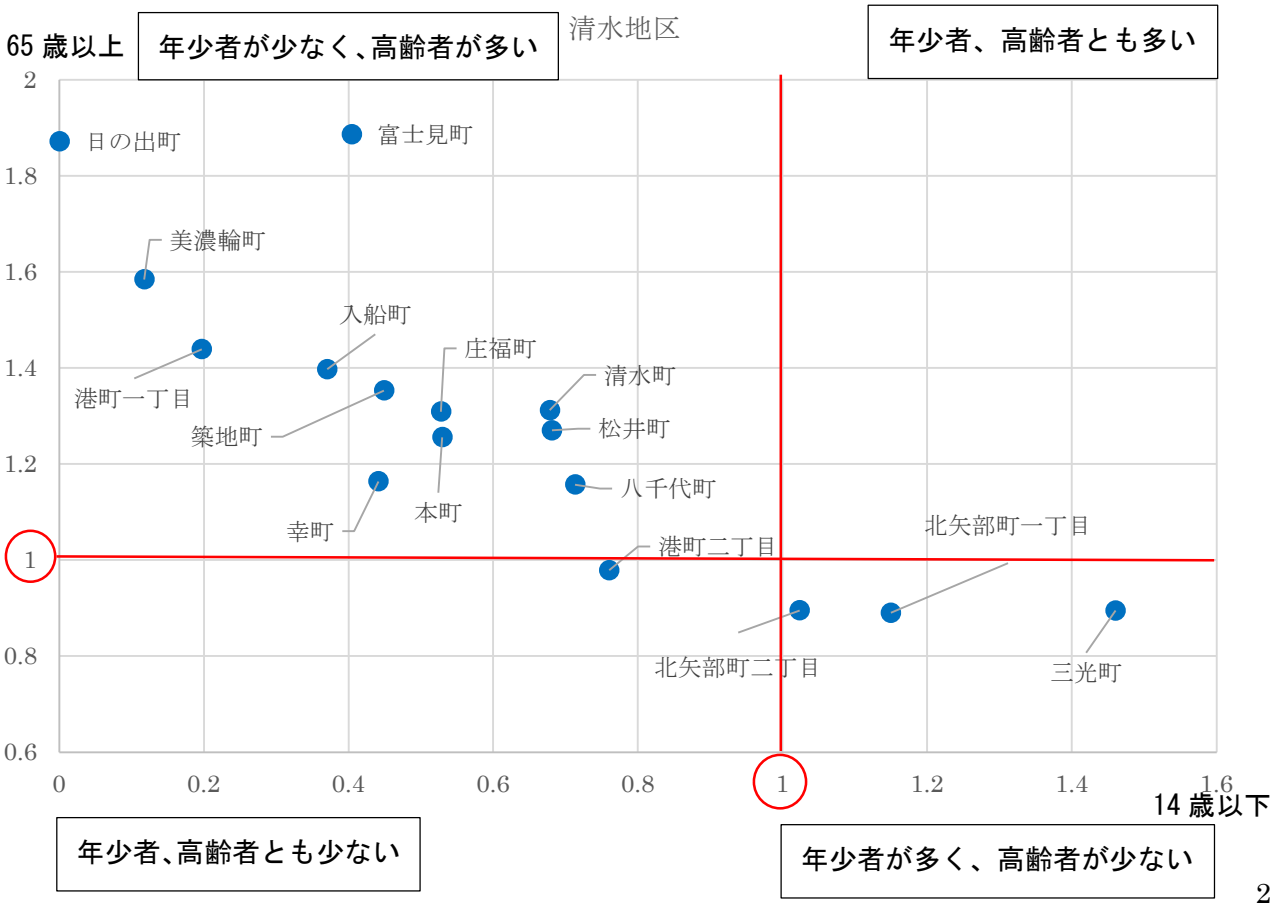
区　分	平成 27 年 (2015 年)	令和 6 年 (2024 年)
地　区	 1.68人	1.43人
静岡市	2.16 人	1.87 人
清水区	1.98 人	1.70 人

●人口ピラミッド【平成 27 年（2015 年）と令和 6 年（2024 年）の 5 歳階級別男女別構成】



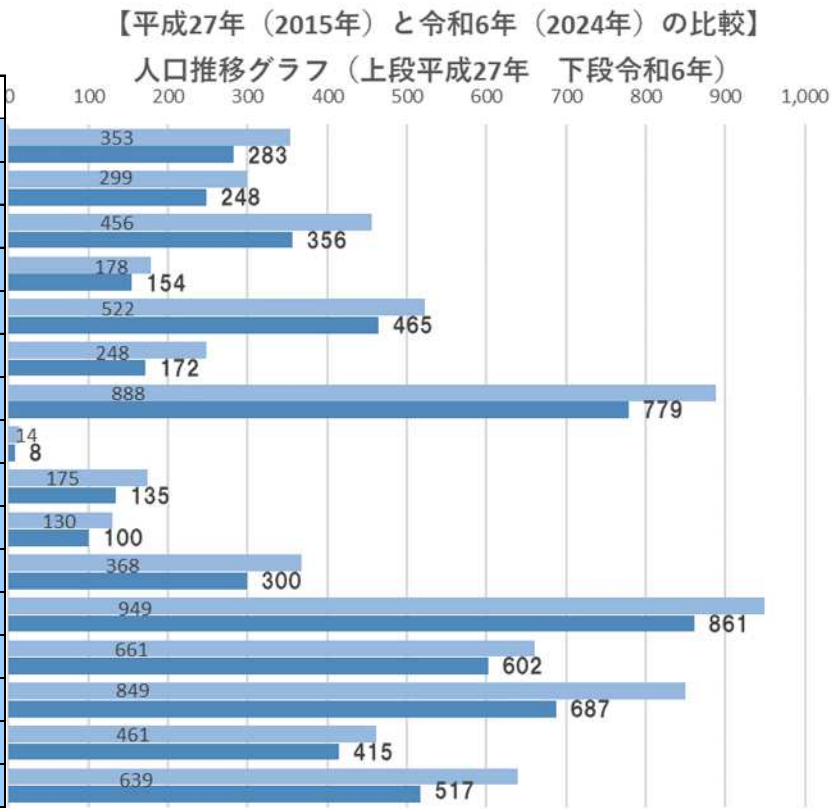
●町別の 14 歳以下と 65 歳以上の割合分布（清水区の平均値を１とした場合）

※年少者（14 歳以下）高齢者（65 歳以上）



●町別の伸び率と人口推移

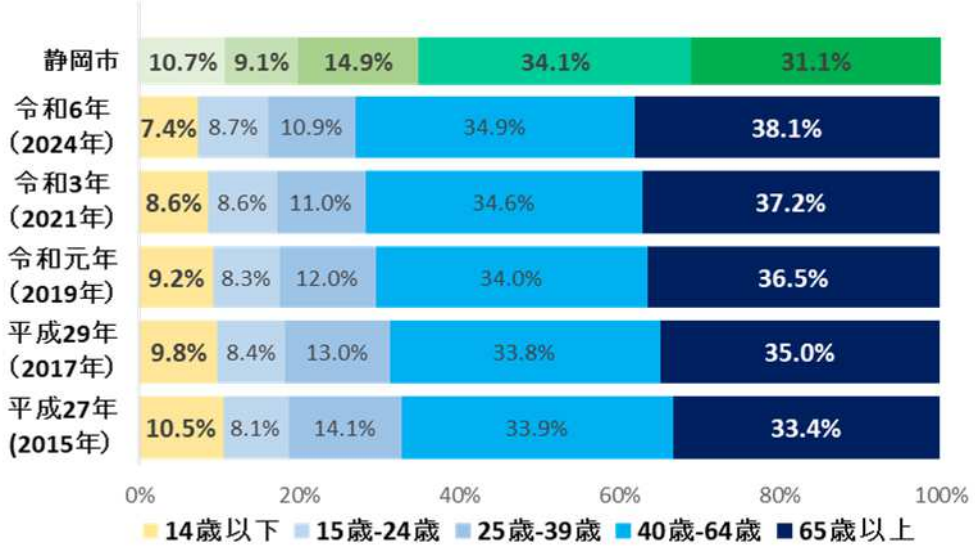
町名	伸び率
清水町	-19.8%
本町	-17.1%
松井町	-21.9%
港町一丁目	-13.5%
港町二丁目	-10.9%
美濃輪町	-30.6%
八千代町	-12.3%
日の出町	-42.9%
築地町	-22.9%
富士見町	-23.1%
入船町	-18.5%
北矢部町一丁目	-9.3%
北矢部町二丁目	-8.9%
幸町	-19.1%
三光町	-10.0%
庄福町	-19.1%



		人　　口	
		平成27年（2015年）	令和6年（2024年）
清水地区	**−15.4%**	**7,190**	**6,082**
静岡市	−5.3%	713,564	675,610

●町別人口区分別割合

・年齢５区分別人口割合の推移



※15-24 歳は高校から社会人（大学修士課程含む）　25-39 歳は社会人（大学博士課程含む）

・令和６年人口３区分別：

市の割合より

青字　14 歳以下の割合が低い場合

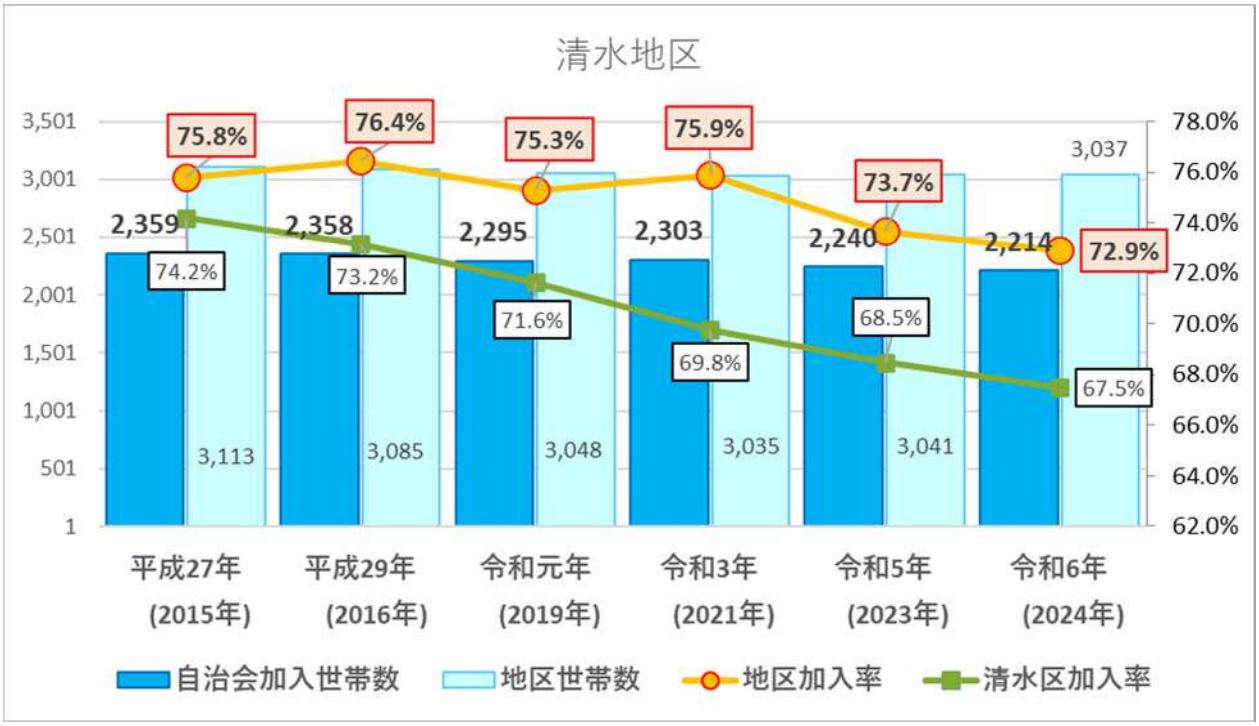
赤字　65 歳以上、75 歳以上の割合が高い場合

町　名	令和6年階級別割合		
	14歳以下	65歳以上	そのうち75歳以上
清水町	6.7%	43.8%	27.2%
本町	5.2%	41.9%	27.4%
松井町	6.7%	42.4%	26.7%
港町一丁目	1.9%	48.1%	32.5%
港町二丁目	7.5%	32.7%	17.6%
美濃輪町	1.2%	52.9%	41.3%
八千代町	7.1%	38.6%	22.2%
日の出町	0.0%	62.5%	25.0%
築地町	4.4%	45.2%	28.9%
富士見町	4.0%	63.0%	37.0%
入船町	3.7%	46.7%	30.0%
北矢部町一丁目	11.4%	29.7%	17.5%
北矢部町二丁目	10.1%	29.9%	16.1%
幸町	4.4%	38.9%	24.5%
三光町	14.5%	29.9%	16.4%
庄福町	5.2%	43.7%	26.1%
清水地区	7.4%	38.1%	23.1%
清水区	9.8%	33.0%	19.3%
静岡市	10.7%	31.1%	18.0%

●自治会加入状況

令和６年

加入率	地　区	72.9%	加入世帯数	2,214 世帯
	清水区	67.5%	住民基本台帳世帯数	3,037 世帯



清水地区コメント

・人口と世帯数とも減少傾向を示しています。世帯人数が減少していることから、単身世帯や小家族化が進んでいるようです。

・人口減少地区は町内全てに見られます。

・令和 6 年の 65 歳以上を1人支える生産年齢(15 歳から 64 歳)が市の 1.9 人より少ない 1.4 人で減少傾向にあり、若い世代の地区や自治会活動等への負担が増えることが見込まれます。

・さらに、自治会の加入率は区の値 68%より高い 73%ですが、年々減少傾向が見られます。

清　水　地　区

地名のゆかり

平安時代に編集された「延喜式」には“棚清水”という地名が記されていますが、これは現在の上清水、下清水辺り（岡清水とも呼ばれました）だと言われています。

この岡清水に紺屋や造り酒屋があったことでも分かるように、豊富な湧き水が出る所がありました。この水がとてもきれいだったことから、清水の地名が起こったことと思います。

江戸初期、巴川口の袋城跡地などに、浜清水（本町など）の町ができ、港町として発展しました。しかし、この港町は、水が乏しかったため、飲用水を西方の小高い岡清水に求めました。上清水の禅叢寺、下清水の八幡神社、福厳寺の境内の井戸を元井戸とし、そこに 湧き出る水を“岡水”と呼んで、呼(よび)樋(どい)や汲(くみ)桶(おけ)を利用して使っていたということです。

港に出入りする船にとっても、この岡水は欠くことのできないものだったことでしょう。

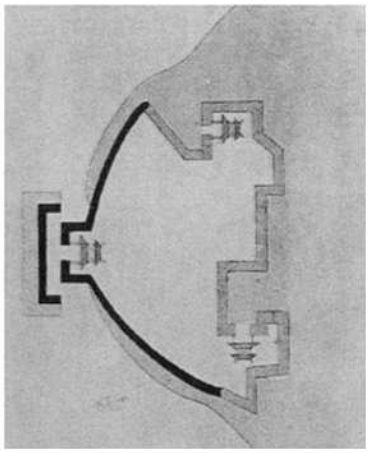
江戸後期の清水みなと（広重）

袋　　城

巴川下流の袋町、新魚町（共に現在は本町）付近に、永禄13年（1570）から慶長19年（1614）まで、「袋城」がありました。これは、伊豆を根拠地とする北條氏の水軍がしばしばこの辺りを荒らしたので、作戦根拠地の小芝城を守るため、武田氏が、名将馬場美濃守に命じて構築したものです。

巴川に半島状に突き出た珍しい城で、本格的な水軍根拠地としては日本最初のものと言われています。しかし、もともと水軍の根拠地として造られたうえに、近くに小芝城と久能城という堅城があったため、防備は堅固でなく、外郭の曲(くる)輪(わ)もただ堀割が設けられていただけということです。この城は、武田氏滅亡とともに徳川氏のものとなって、間もなく廃城とされ、その跡地に町が形成されました。

現在はその城跡は全くなく、わずかに、美濃輪町、袋町という地名に名残りをとどめています。



巴川に突き出た袋城

万　霊　碑

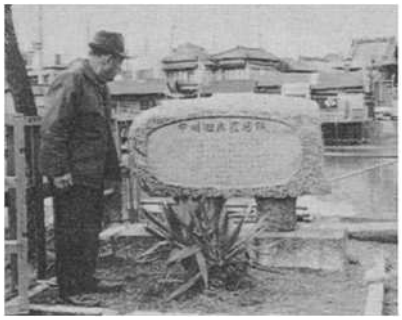
松井町の稲荷社の境内に、市の文化財に指定されている「万霊碑」があります。これは、天明２年（1782）に、播磨屋作右衛門が、幕府の御米蔵敷地（現在の清水小学校の所在地）内の稲荷社に建てた万霊碑を、後年、現在地に移したものです。

当時、この辺りには農耕地が少なかったため、清水港随一の回船問屋だった作右衛門が干潟を埋め立て、およそ3600㎡の新田（今の松井町など）を造成しました。そのとき、御米蔵付近の土砂を採ったところ、昔そこに墓があったのでしょうか、たくさんの人骨が出てきました。

そこで、作右衛門が、この霊を慰めようと慧海上人を招いて、１ヶ月の法要を営んだ後、万霊碑を建立したのです。

清水小近くにある万霊碑

甲州回米置場跡の碑


港橋際の甲州回米置場跡の碑

米俵型の「甲州廻米置場跡」の碑が、港橋バス停近くの巴川岸に立っています。江戸時代、甲州から幕府へ納める年貢米は、富士川を舟で運ばれ、岩渕、蒲原を経由して、向島の回米置場に集められ、大回船で江戸へ送られていました。

既に江戸初期の延宝４年（1676）には、甲府宰相徳川綱重の回米置場が向島の国鉄鉄橋下流辺りにあったそうですが、大地震後間もない宝永４年（1707）、回米置場が今の水神社北の万世町に設けられました。

寛保元年（1741）になって碑の辺りに「甲州城米積場」が作られ、送られてきた甲州城米が一時預けられ、直ちに大回船で江戸へ回送されました。そのころ向島へ集められた米は、年間９万俵にも達しています。

碑は、この史実を長く伝えようと昭和36年に、鈴木与平氏の肝いりで建てられたもので、さつき通りを隔てた東側には、今も山梨県の県有地が残っています。

西宮神社・稲荷神社

清水地区には２つの有名な神社があります。昔から「おいべっさん」と呼ばれている西宮神社（恵比須社）と美濃輪稲荷神社です。

西宮神社は江戸時代、本魚町の仁右衛門という商人の家に行脚の僧が一夜の宿を請いましたが、彼のさった後に攝津国（兵庫県）の西宮神社で無くなった御神体が残されていました。そこで、魚河岸に社祠を建て、元魚町、新魚町、袋町３町の守護神として御神体を祭ったのがこの神社の始まりと伝えられています。

美濃輪稲荷神社

美濃輪稲荷神社は、五穀豊穣を願う農耕の神だと言われています。宝永年間（1704～ 1710）に甲府城主だった柳沢美濃守吉保が、清水の向島に米蔵を建て、その構内に守護神として稲荷社を祭ったのがこの神社の始まりだと言われています。その後、信仰心の厚い与兵衛という人がこのお稲荷さんを現在の地に祭りました。

「壮　士　の　墓」

清水次郎長の義挙で有名な「壮士の墓」が、港橋から巴川東岸を下流へ200mほど行ったところにあります。

明治元年、鳥羽伏見の戦いに端を発し、関東、東北へと広がった戊辰戦争で、戦いに敗れた幕府の海軍副総裁榎本武揚は、８隻の軍艦を率いて品川沖から函館へ向かいました。

その中の１隻「咸臨丸」が暴風雨のため清水港へ漂着しました。１ヶ月後傷んだ船体を修理していましたが、官軍の襲撃を受け、副官以下数人の乗組員が討ち死にしました。

この死体が海岸に漂っているのを、官軍を恐れて誰も手を付けることができませんでした。

清水の次郎長は「死ねば官軍も賊軍もない」と、ひそかに死体を引き上げて、ここ向島の松の根元に埋葬し、後に墓を建立しました。

壮士の墓という墓碑名は、次郎長の義挙に感激した山岡鉄舟が書いて送ったものです。

築地町にある壮士の墓
かたりべクラブ提供